

団体名 <b>渡名喜村教育委員会</b>	連絡先 TEL: 098-989-2015 Eメール: <a href="mailto:kaoru@vill.tonaki.lg.jp">kaoru@vill.tonaki.lg.jp</a>
-------------------------	---

## 1 実践事項（質の高い秋田の授業方式や子ども達から学ぶ）

### 2 はじめに

本村の学校では、明治以来「人材を以て資源となす」を中心に据えて教育活動を実践しこれまでに多くの人材を輩出してきた。しかし近年本村人口が300人までに激減し、児童・生徒の数も類似の離島村と比較して極端に少なくなってきた。だから集団で切磋琢磨して学ぶ体験が不足しがちである。全国学力テストで常に全国トップクラスの成績である秋田県の学校を訪問し、集団で切磋琢磨して考える授業を体験することは、子どもたちにとって「主体的・対話的で深い学び」につながる非常に価値のある体験ができるものと考え。また引率する教師にとっても、質の高い授業の指導過程や指導方法に触れ、日々の授業の工夫改善等に努めて指導力を高めることにつながれば、本村の学校教育の充実に寄与できるものと考え。

### 3 ねらいや実施内容

#### (1) ねらい

- 1 秋田県大仙市の児童生徒たちの、「主体的に学ぶ姿勢」「互いに学び合う姿勢」に触れることで、勉強の楽しさやわかる喜びを実感し、学ぶ意欲を高める。
- 2 大仙市の児童生徒の「学校生活の様子や仲間達とのつながり」、「生徒と教師の交流」等とおして、学び合い高め合う姿勢や態度等を学ぶ。
- 3 大仙市の気候、風土、歴史や文化に触れ、視野を広げ感性を豊かにする。
- 4 「東京スカイツリー」の見学をおして、日本の技術力の高さを実感するとともに、巨大都市「東京」を肌で感じて、視野を広げる。
- 5 引率教諭においても、質の高い授業の指導過程や指導方法に触れ、日々の授業の工夫・改善等、指導力の向上につなげる。

#### (2) 実施内容

- 1 実施期間 令和5年11月14日～11月19日 5泊6日
- 2 交流学习 秋田県大仙市高梨小学校・仙北中学校（11月15日・16日）
- 3 地域散策 東京スカイツリー、浅草寺、お台場
- 4 参加者 小学5年生（5名）小学6年生（2名）中学生（3名）教員（6名）  
教育委員会（2名）

### 4 交流学习で学んだこと

#### (1) 小学生の感想

- ①友達と一緒にコマ撮り動画を使って動画を作ったことです。授業では、友達に使い方を教えてもらって、実際に動画を作って成功したので、とても面白かったです。自分と友達で作った動画を見せると、みんなすごいと言っていたのでうれしかったです。
- ②秋田交流学习に行ったら私は色々なことを学びました。1つ目は、自分から手を挙げて積極的に発言することです。2つ目は挨拶や発表など人前で喋る場面でははっきり大きな声で喋ることです。この2つのことをこれから行事や学校生活を過ごしたいです。
- ③高梨小学校の人たちは、みんながとても積極的で、授業でたくさんの人が手をあげたり、恥ずかしがらずに堂々と発表していたりしていました。ぼくは、普段恥ずかしがってあまり手を挙げなかったり、人前で発表したりすることができなかったりしていたので、高梨小の人たちの積極的な姿勢をまねしようと思いました。
- ④学んだことは、家庭学習での勉強の仕方です。家庭学習の勉強の仕方とは、なるべく隙間を空けないことです。隙間が空いたらうめることです。また、授業の進め方では、分かる問題は手を上げてしゃべるなど身につけることができました。
- ⑤東京観光では、浅草寺とフジテレビ、東京スカイツリーに行きました。一番印象に残ったのは東京スカイツリーです。東京スカイツリーでは、350メートルまで一気にエレベーターで

のぼっていきました。エレベーターは冬と秋のイメージのエレベーターでした。エレベーターは1分くらいかかるかな?と思ったけど50秒でのぼったのでびっくりしました。

⑥印象に残っていることは、芋の子汁です。5、6年生とボランティアの人達とで作りました。班のみんなで協力しながら楽しく作ることができました。

⑦行く前までは、楽しみでしたが、行くときには緊張したり不安になったりしました。なぜなら、高梨小学校の友達は自分のことを覚えてくれているのかわからなかったからです。でも秋田の友達に会った時、私の事を覚えてくれていたので安心しました。

⑧東京観光で一番印象に残っていることは、スカイツリーに行ったことです。350mの高さまで行った時に、耳が痛くなりましたが、とてもワクワクしました。高さ350mからの眺めは、東京全体が見えてとても印象的でした。

## (2) 中学生の感想

①仙北中での交流を通して、グループ活動を活発に行っていたのがとても良いなと感じました。わからないところや困っているとき色々優しく教えてくれました。これからは、大人数の中でもできないと思わずに、まずは、やってみようと思いました。そしてグループ活動の中で自分の意見を発言出来るよう頑張りたいです。

②「一勉ノート」という勉強方法を見て、学ぶことが出来ました。ノートにびっしり書いてあって自分のわかりやすいようにまとめていて、勉強の量の質もすごいと思いました。僕も学んだ勉強法を取り入れて受験に向けて頑張ろうと思いました。

③積極的に友達同士で教え合ったりして、わかりやすく伝えるように工夫している所や、他にも先生に当てられた時にすぐに自分の考えを述べるだけではなく、そう考えた理由を付け加えて発表できるところは、中学校だけではなく、高校に進学してからも必要になる力だと思うので、残り短い中学校生活の中でも実際にチャレンジして見たいと思いました。

## (3) 教師の感想

①授業の最後に1分間の振り返りの時間に生徒を指名して、授業で何を目的(課題)に学習し、わかったこと(解決や方法)を自分の言葉で述べさせていた。インプットの後にアウトプットをさせていた。この時間があることを生徒は把握しているので授業を進める中で、何が課題でどんな方法を使ってどんな解決したのかを常に意識して授業に取り組ませている。

②どの教師も授業について特別なことをしているわけではなく、教材理解が深く行われているように感じた。押さえるポイントや児童に考えさせるポイントなどが、的確でまたペア学習やグループ学習を効果的に入れており、教師だけではなく児童同士でも学び合える環境が整っていた。

## 5 成果

(1) 秋田の自然や社会生活を体験し視野を広げる機会となった。

(2) 子どもと教師共に、秋田方式の「主体的・対話的で深い学び」を体験することができ有意義であった。

(3) 渡名喜で育むことが課題とされているコミュニケーション力や協調性を育む機会になった。

(4) 大都会「東京」を肌で感じて、体験することができた。

## 6 今後の体験交流学习

(1) 平成30年から始まり、コロナ禍をはさんでいるが4回も体験交流学习を受け入れてもらった。秋田県大仙市教育委員会にとっても感謝している。

(2) ギブアンドテイクではなく、どちらかというと一方的にお世話になる事業で、大仙市側の負担が大きいものとする。

(3) 秋田交流学習は、今年度で終了としたい。

- ①次年度は小学校、中学校とも修学旅行があり、授業実数や職員の働き方改革等の面からきびしい。(学校)
- ②国の補助金を得ているが、それ以上に村の予算を使っている。確かに渡名喜にとっては素晴らしい成果があるが、お金がかかりすぎる。渡名喜の子どもたちだけが大きなメリットがある。
- ③大仙市の側から見るとあまりメリットがない。大仙市の教育委員会側が「そろそろおしまいにしたい」という空気を感じた。

